國學院大學学術情報リポジトリ

2022年度国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-21 キーワード (Ja): NDC9:069.5, NDC9:160.4, NDC9:161.3 キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001632

はしがき

國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所　所長
平藤　喜久子

本報告書は、2022 年 12 月に國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所の主催で開催された国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化」における議論をまとめたものである。

日本文化研究所は、長年にわたって、国際的な比較の視点を組み込みながら、日本の宗教文化について研究を進めてきたが、近年は、とりわけ視覚文化との関わりにおいて宗教文化を検討することを試みている。例えば、2020 年度には「見えざるものたちと日本人」という国際研究フォーラムを開催し、宗教文化においてしばしば「見えない」ことに特別な意味付けがされる一方で、それが視覚文化においてどのように描かれているのか、あるいは描かれないのか、といったことについて議論した。また、2021 年度には「日本の宗教文化を撮る」という国際研究フォーラムを開催し、宗教の実践においては実体的なモノがあり、またそれに関わる形で行為などのコトがあることになるが、そうしたモノやコトをどのように撮影し、記録し、見えるようにするのか、といったことについて論じた。

これらは、宗教文化に関して文字資料が重要であることを前提とした上で、あらためてモノ資料や、視覚表象とその解釈などを検討しようとするものであったが、「ミュージアムでみせる宗教文化」もまたその延長線上にある。企画に際しては、どのように宗教文化を「みせる」――「見せる」であり「魅せる」でもある――のかということを基本的な問題意識とし、かつそれを、宗教文化教育という局面にも目を配りながら、「ミュージアム」という場に焦点を合わせることとした。

具体的には、全体を二部に分けて構成し、第Ⅰ部「大学ミュージアムの中の宗教文化」では、宗教系大学に設置されている大学ミュージアムの展示担当者に登壇してもらい、宗教系大学という、ある意味で特定の宗教伝統と当事者的に関わっている立場から、どのような展示の試みがなされているのかを報告してもらった。

また第Ⅱ部「多様性の中の日本の宗教文化」では、アメリカにおける日系人の宗教文化や、アイヌの宗教文化についての展示について報告してもらい、それらの豊かさについて学びながら、同時に日本で「日本の宗教文化」をみせようとする際の自明性のようなものを、少し異なる視点から照射することを企図した。

本報告書が、ミュージアムにおける宗教文化、あるいは宗教文化をどのように「みせる」のかについて考えるきっかけとなれば幸いである。